

(学校運営協議会・報告様式)

令和7年度 第5回 若松小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日時 令和 8年 1月 16日(金) 16:00~17:00

2 場所 会議室

3 あいさつ

(委員長)・卒業式まで2ヶ月。現6年生はコロナ禍での学校生活を送ってきた。大変だったと思う。ほめてあげたい。

(学校長)・卒業式が3月19日にある。運営協議会委員の方には参加していただきたい。

案内は2月上旬か次回協議会でお渡しする。

4 協議内容(○委員の発言 ●回答等)

(1) 児童・保護者アンケートの結果について(校長)

・アンケート結果から、肯定的な回答が増えてきている。

・「相談できる」「夢がある」「予習・復習」「学年×10分の勉強」に課題がある。

○学校独自のアンケートか、他校と比較できるのか

●学校独自であるが、学調や非認知にかかわるアンケートに関しては、他校と比較可能。

(2) 学校関係者評価について(校長)

①学力向上

・国語は改善傾向にあるが、算数に課題があるため、令和7年度は算数を研究教科としている。

・30分を超えると60分学習できる傾向があり、やり始めると頑張れるが、やり始めるまでのとっかかりが課題である。

○時間にまどわされず、勉強の「質」が大事である。

●学校では家庭学習の「質」を調査することはできないが、「質」の大切さを職員と共有する。

○自分でやることを考えて、勉強するのは難しいので(特に低学年)、宿題が基本になる。

②長期欠席対策

・ほっとルームやスクールカウンセラーを活用している。

・外国籍児童について、学校では日本語を勉強、家庭では母語で話すことを考えると、「書く」ことが難しい。

・外国籍児童が日本で生活するに足りる日本語力をつけることも大切だが、母語も大切にしたい。

・外国籍児童は、困っていることを表現できないもどかしさもある。こういうことで、不登校にならないようにしたい。

③非認知能力育成

・社会性が高い。地域の方々の支援も大きい。

・始業式や終業式における校長の話を、各学級で確認してもらうようにしている。

・児童会が主催となって、いじめ防止の運動をしている。

・自己肯定感が低いことが課題

○他人に言われて自分のよいところを知ることがある。

○ほめることが大切。役を決めて、できたことをほめることができるようにしている。

○帰る前に、その日のうれしかったことや友だちの良かったことなど、具体的に言い合えるとよい。

○語り部の練習で、こどもにできたことを、一つ一つ伝えていったら、練習終了時には大きく良くなっていた。練習後も自主的に練習する姿があった。

○こどもたちが達成感を持つことができる環境を設定することが大切。

・整理整頓にかかわり、地域の方々のおかげで、環境整備が進んだ。

#### ④地域連携

・地域の方々のご協力で、地域学習が充実している。

・ボランティアの方々参加により、図書室の整備が進んだり、授業が充実したりした。

・令和8年度も委員の方に授業を参観してもらおう機会をつくりたい。

○授業をみると、学校改善が進んでいるのがわかる。

#### (3) 来年度の課題(校長)

・学校運営協議会員メンバーについては、基本は今年度と同メンバーでいきたい(委員長継続)。地域との関係で交代される方もいる。

・防災の関係で、特別教室用のヘルメットを PTA の予算で購入してもらおう方向で進んでいる。

#### 5 教育支援課より

・児童アンケートと保護者アンケートでは、回答が異なることがある。(例:読書について、児童の回答は「読んでいる」率が高いが、保護者の回答は低い) 異なる回答があるのは当然のことであるが、分析するときには、こういうことも意識する必要がある。

・学校関係者評価で大切なのは、委員の声をどう生かすか。改善点を大事にして、来年度の学校生活に生きるようにしたい。

・コミュニティ・スクールがうまくいくのは、地域との連携がうまくいっているかどうか。これまで地域の方が育てられている地域学習、ふるさとについて考える機会は大切。